

地方創生推進交付金 事業効果検証シート
(R4年度事業分)

No.	1	担当課	定住対策課
-----	---	-----	-------

交付対象事業名	持続可能なまちづくりのための地域活力向上にぎわい創生プロジェクト				
総合戦略での位置付け	2-2 交流の拡大と関係人口の創出	事業費	計画額(円)	22,498,000	
	③人と人、人と地域との結びつきの形成		実績額(円)	22,461,000	
事業概要	地域内外の人のつながりを生み出す電子地域通貨プラットフォームの仕組みを通して、八女市への新しいひとの流れをつくり、継続的に多様な形で関わる関係人口を創出・拡大させる。また、人と人とのつながりを深めた地域社会資本を元手に地域経済資本や地域環境資本を増やしていき、だれもが多様な才能を発揮できる持続可能な地域社会構造への移行を目指す。				
活動内容	①コミュニティ通貨関連業務 ・システム基本使用料 ・コミュニティ通貨運用支援(通貨の配布・発行・管理アドバイス、分析レポート作成) ・加盟団体募集促進・エリア拡大 ・コミュニティ通貨プロモーション ・運営団体育成 ・地域循環促進企画(イベント等による) ②関係人口創出拠点施設運営 ・コミュニケーションツール製作 ・施設活用支援(移住マッチングサイトSMOUT利用、移住検討者向け企画) ・運営人件費 ③サテライトオフィスを活用した起業支援 ・コミュニティマネージャー招聘(車両リース含む) ・起業家育成支援等イベント ・リモートワーカー育成・誘致				
主な成果	コロナによる行動制限が緩和されたことでイベントの来店によるPRを精力的に行い、活性化するための企画イベントを実施することでまちのコインの利用件数やユーザーの新規獲得につながった。また、関係人口創出拠点「つながるバス停」では、チャレンジショップやFM八女とのタイアップ企画等を実施し利用促進を図ったほか、西鉄バスや堀川バスとのコラボ事業や学生ボランティアによる企画等により関係人口の創出を図った。 また、南仙荘を拠点にコミュニティマネージャーを配置し、継続的にサテライトオフィス等の設置検討企業への支援や育成、誘致、地域コミュニティ醸成を実施した。具体的には、テレワーク講座、かえるカフェ×南仙塾ビジネス講座、HP制作講座といった起業家育成や、サテライトオフィス進出支援として首都圏の企業をメインターゲットにしたオンラインでのマッチングイベントを実施した。 このような取組により、令和4年度はKPI目標を達成し、八女市への新しいひとの流れをつくり、関係人口を創出・拡大につなげることが出来た。				
重要業績評価指標(KPI)	指標(単位)	基準値	目標値(R4年度)	実績値(R4年度)	説明
	アプリ内チケット利用回数(回)	0	20,000	27,917	毎月5件以上の企画実施を行い精力的にプロジェクトを実施したことにより体験数も増加。
	地域外ユーザーのチケット利用回数(回)	0	500	12,865	コロナの影響によるイベント中止もなく、イベントでのPRにより、多くの地域外ユーザーが利用された。
	コミュニティ通貨を活用したプロジェクト実施数(回)	0	45	64	毎月5件以上の企画実施を行い精力的にプロジェクトを実施した。
	コミュニティ通貨利用者の起業数(人)	0	3	4	地域おこし協力隊の起業、空き町家の紹介からの起業、つながるバス停でのチャレンジショップからの起業、その他まちのコインのユーザーの中から起業があった。
取組の検証	事業効果	②本事業は地方創生に相当程度効果があった			
	課題・改善点	令和3年度の取組検証でコロナによる制限緩和を見越して「大規模イベントと連動してコミュニティ通貨を活用する地域循環促進企画を実施する。」旨総括しており、それを踏まえて令和4年度は精力的にイベントでのPRを行い効果的な取り組みができたと感じている。しかし、ユーザーから寄せられる意見を分析すると、各加盟店が作成するまちのコイン体験の充実が求められており、改善を図ることで、持続的な人の流れをつくる仕掛けづくりができると考えている。			

<事業効果>

- ①本事業は地方創生に非常に効果的であった ②本事業は地方創生に相当程度効果があった
③本事業は地方創生に効果があった ④本事業は地方創生に対して効果がなかった

今後の方針	③事業の継続
	イベントや祭りと連動してコミュニティ通貨を活用する昨年度までの取組に加えて、加盟店への働きかけに力を入れ、魅力的なまちのコイン体験を量産していくことで確実な関係人口の創出につなげたい。 また、持続的な仕組みになるように関係課と協調しながら安定した組織運営を目指す。さらには、通貨運営団体で、通貨の総流通量をつながりの重要指標として捉え、つながりが増えるように事業を実行していく。

<今後の方針>

- ①追加等さらに発展させる ②事業内容の見直し(改善)
③事業の継続 ④事業の中止 ⑤予定どおり事業終了

有識者からの評価	①総合戦略のKPI達成に有効であった
意見	・リサーチや訴求のツールとしては非常に効果的である。 ・関係人口という定義が多義的であるため、判断しやすい定量的・定性的な指標を設定してはどうか。 ・八女市として関係人口をどのような人たちに向けて拡大していくか明確にしたほうが良いのではないかと。 ・事業者だけでなく、住民の方への活用の促進を検討してはどうか。

<有識者からの評価>

- ①総合戦略のKPI達成に有効であった ②総合戦略のKPI達成に有効とは言えない

持続可能なまちづくりのための地域活力向上にぎわい創生プロジェクト事業【福岡県・八女市】

計画概要

地域内外の人のつながりを生み出す電子地域通貨プラットフォームの仕組みを通して、八女市への新しいひとの流れをつくり、継続的に多様な形で関わる関係人口を創出・拡大させる。また、人と人とのつながりを深めた地域社会資本を元手に地域経済資本や地域環境資本を増やしていき、だれもが多様な才能を発揮できる持続可能な地域社会構造への移行を目指す。

事業の目標

当事業は、電子地域通貨プラットフォームの仕組みを通して、地域内の多様な人材が地域活動に関わり、地域外からの関係人口を創出・拡大し、多様な人材が活躍する地域社会構造への移行を目指すことで、地域活力の向上とにぎわいを生み出すことを目的としている。

事業の成果

コロナによる行動制限が緩和されたことでイベントの出店によるPRを精力的に行い、活性化するための企画イベントを実施することでまちのコインの利用件数やユーザーの新規獲得につながった。また、南仙荘を拠点にコミュニティーマネージャーを配置し、継続的にサテライトオフィス等の設置検討企業への誘致や支援、起業家の育成など地域コミュニティ醸成を実施した。

関係人口

階段を上がるごとに
関心・関与の度合いが増える

拠点を持つ

交流する
何か手伝う

通う

ファンになる

興味を持つ

移住・定住

人と人のつながりが
やがて住みたい街になる

KPI	R4目標値	R4実績値
アプリ利用者数	—	5,347人
スポット数	—	231件
アプリ内チケット利用回数※	20,000回	27,917回
地域外ユーザーのチケット利用回数※	500回	12,865回
コミュニティ通貨を活用したプロジェクト実施数※	45回	64回
コミュニティ通貨利用者の起業数※	3人	4人

※印は、地方創生推進交付金の事業計画に掲載しているKPI

地方創生推進交付金 事業効果検証シート
(R4年度事業分)

No.	2	担当課	観光振興課
-----	---	-----	-------

交付対象事業名	魅力ある地域づくりによる移住・定住促進事業（福岡ソフトバンクホークスファームを核とした関係人口の創出拡大事業）					
総合戦略での位置付け	2-2 交流の拡大と関係人口の創出	事業費	計画額（円）	358,000		
	③人と人、人と地域との結びつきの形成		実績額（円）	358,000		
事業概要	福岡ソフトバンクホークス・ファーム本拠地を活用した筑後七国の活性化を図る。 ・激甚化する自然災害とコロナ禍により、人々の地方への移住・定住の意識が高まっている、この機を捉え、新たな移住者層の掘り起こしを行い、関係人口の創出・拡大に取り組むとともに、東京圏など大都市圏からの移住希望者への積極的な誘致をはかる。 ・くらしを守り、地域コミュニティを維持する持続可能な地域づくりを進めるとともに、地域の魅力を向上させる。					
活動内容	1.ソフトバンクホークス連携事業 (1)球場内PRイベント「筑後七国デー」開催(2)野球観戦チケットの配布(3)中学生野球教室(4)都市圏観光PR(paypayドーム) 2.観光情報発信事業 (1)観光プロモーション映像活用(2)webサイト「筑後七国よかとこ巡り旅」(3)観光情報誌、地元経済誌への掲載・(5)筑後七国スタンプラリー実施 3.観光促進事業 (1)観光ボランティアガイド研修(2)筑後船小屋観光案内所活用(3)サイクルツーリズム事業 4.調査研究事業 (1)インバウンド推進事業の調査研究 5.筑後船小屋駅内情報発信事業 6.JR要望活動事業					
主な成果	1ー(3) 中学生野球教室 市内全中学校の生徒が参加 2ー(5) 筑後七国スタンプラリー 総参加者数1,354人 5ー(1) 観光ガイド研修 7自治体の観光協会、ガイドの会、商工会議所など46名参加 5ー(3) サイクルツーリズム事業 柳川市、大川市のモデルルート策定、旅行業者を招へいたテストライド					
重要業績評価指標（KPI）	指標（単位）		基準値	目標値（R4年度）	実績値（R4年度）	説明
	福岡から東京圏への転出超過数（人）		-6,179	453	-780	目標値、実績値はいずれも1年度の増減数
			0			
			0			
			0			
取組の検証	事業効果	③本事業は地方創生に効果があった				
	課題・改善点	令和4年度は数年間実施ができていなかったイベントやPR事業を再開させることができた。 課題としては7自治体のエリアごとのコンテンツ造成・磨き上げは進んでいるが、複数エリアを周遊する仕組みづくりが十分にできていないため、今後モデルルートの策定と新たな移動手段の確保が必要。				

<事業効果>

- ①本事業は地方創生に非常に効果的であった ②本事業は地方創生に相当程度効果があった
③本事業は地方創生に効果がなかった ④本事業は地方創生に対して効果がなかった

今後の方針	③事業の継続
地域住民を対象とした元プロ選手による野球教室や2軍戦前後に実施したファン交流事業はアンケートから非常に満足度の高い取り組みであることがわかった。またタマスタ筑後には県外の野球ファンも観戦に来ており、観戦をきっかけに筑後エリアを認知する方も多く、観光面の伸びしろが感じられた。引き続きホークスファームと連携をはかり地域住民、県外の観光客双方へのプロモーションを行っていきたい。	

<今後の方針>

- ①追加等さらに発展させる ②事業内容の見直し(改善)
③事業の継続 ④事業の中止 ⑤予定どおり事業終了

有識者からの評価	①総合戦略のKPI達成に有効であった
意見	・広域連携ということで、費用対効果の面では効果的であると考ええる。 ・KPIが県全体を対象とするのものとなっているため、八女市での効果を評価することが困難である。

<有識者からの評価>

- ①総合戦略のKPI達成に有効であった ②総合戦略のKPI達成に有効とは言えない

福岡ソフトバンクホークスファームを核とした関係人口の創出拡大事業【福岡県・八女市】

事業の概要

筑後船小屋駅と福岡ソフトバンクホークスファーム球場を核とし、筑後エリアの7自治体(八女市、筑後市、柳川市、みやま市、大川市、大木町、広川町)および福岡県、商工連合会が連携し、観光情報発信やイベント開催、調査事業、ホークス連携の地域密着型の事業など、筑後七国域内に観光客を呼び込むだけでなく、域内に住む住民が地域へ愛着を持って暮らすことができるような取り組みを展開した。

活動内容

- ソフトバンクホークス連携事業
筑後七国デー開催、中学生野球教室
- 観光情報発信事業
シティ情報ふくおかなど観光情報誌への掲載
- 観光促進事業
ガイド研修、サイクルツーリズム事業
- 調査研究事業
インバウンド対応研修



筑後七国デー(5月27日)

中学生野球教室(8月4日)

事業の成果

地域住民を対象とした元ホークス選手による野球教室や2軍戦前後に実施したファン交流事業(サイン会、記念撮影)はアンケート調査から非常に満足度の高い取り組みであることが確認できた。またHAWKSベースボールパーク筑後には県外の野球ファンも観戦に来ており、観戦をきっかけに筑後エリアを認知する人が多かったため、筑後エリア観光の伸びしろを十分に感じた。引き続きホークスファームや筑後船小屋駅など核となる施設と連携をはかり、地域住民、観光客双方に向けたプロモーションを実施したい。

さらに昨年度実施したサイクルツーリズム事業、インバウンド事業を織り交ぜながら七国域内の自治体がそれぞれ持つ特色を生かした観光コンテンツの造成・磨き上げを継続して実施したい。

令和4年度 KPI	目標値	実績値
福岡から東京圏への転出超過数(人)	453	-780
【参考指標】※データは八女市のみ		
リピート率	72%	75%
観光客満足度	88%	94%
観光消費額	2500百万円	3134百万円
延べ宿泊者数	110千人泊	152千人泊



シティ情報
ふくおか

地方創生拠点整備交付金 事業効果検証シート
(R4年度事業分)

No.	3	担当課	観光振興課
-----	---	-----	-------

交付対象事業名	地域連携型持続可能な観光拠点整備事業～八女ドリンクツーリズム創出～					
総合戦略での位置付け	2-2 交流の拡大と関係人口の創出		事業費	計画額(円)	997,781,000	
	②持続可能な観光事業の推進と観光施設の整備			実績額(円)	919,545,899	
事業概要	地域に点在する施設・豊かな自然・そこで生活する人々を連携させることを目的に持続可能な観光拠点(べんがら村)の整備を実施する。今回整備するべんがら村を都市との交流の入り口と位置づけ、八女観光の拠点とするために増設する新棟や屋外スペースでの農産物の直売や観光PRブースを設置することでファミリー層向けの観光客をターゲットとした施設整備とする。また、本施設の特徴であるクラフトビールの醸造、八女茶や日本酒をはじめ多彩な農作物を掛け合わせたドリンクツーリズムを展開することで交流人口の創出を目指す。					
活動内容	利用率が低く水道料の負担が大きく夏季のみの稼働にとどまっていたプールや、浴槽が広く湯量に負担がかかる家族風呂を廃止し、観光客が利用しやすいサウナ(現状の2倍の広さに拡張)や子ども向け浴槽等を大浴場に設置した。直売所については、観光客に八女の良いものや価値のある商品を提供するローカルセレクトショップに改変して新しい顧客獲得につなげた。また、既存の複合施設としての機能をさらに高める改修として、クラフトビールの醸造体験ができる機能追加し、外構整備として、車泊スペース、マルシェ広場の整備を行った。					
主な成果	地域の魅力的なプレーヤーやモノが出会い、新たな商品や体験を開発し提供する場を整備することができた。					
重要業績評価指標(KPI)	指標(単位)		基準値	目標値(R4年度)	実績値(R4年度)	説明
	八女市の年間観光入込客数(人)		1,990,000	2,345,000	1,604,000	
	イベント等における連携事業者数(人)		0	10	173	
	施設利用者数(人)		319,922	549,922	342,104	
			0			
取組の検証	事業効果	③本事業は地方創生に効果があった				
	課題・改善点	新型コロナウイルス感染症の影響により八女市の年間観光入込客数および施設利用者数は目標には届かなかったが、イベント等における連携事業者数については、市内だけではなく市外も含め多くの事業者と連携を図ることができた。今後は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが「2類相当」から「5類」に移行されたことから、本施設を拠点として八女市全体に回遊性を持たせ、連携して集客するため、施設の認知度を高め、集客力を高めることで地域を訪れる観光客の増加を図る必要がある。				

<事業効果>

- ①本事業は地方創生に非常に効果的であった ②本事業は地方創生に相当程度効果があった
③本事業は地方創生に効果があった ④本事業は地方創生に対して効果がなかった

今後の方針	③事業の継続
	イベント等を実施し多世代や市内外の交流、顧客満足度を上げるための各種取り組みを行う。また、集客力を高めるための広告、宣伝に力を入れ客の増加を図る。

<今後の方針>

- ①追加等さらに発展させる ②事業内容の見直し(改善)
③事業の継続 ④事業の中止 ⑤予定どおり事業終了

有識者からの評価	①総合戦略のKPI達成に有効であった
意見	・高齢者を含む市民への配慮を十分行った上で事業を実施されたい。 ・新商品開発も含めた販売量の指標など、参考指標としてでも必要ではないか。 ・入場料は市民割を検討されたい。また、宮野公園の再整備等市民の来訪拡大の方策を図っていただきたい。 ・当初の目標値を大幅にクリアしている指標もあるため、次年度以降の目標値設定を検討されたい。

<有識者からの評価>

- ①総合戦略のKPI達成に有効であった ②総合戦略のKPI達成に有効とは言えない

地域連携型持続可能な観光拠点整備事業 ～八女ドリンクツーリズム創出～ 【福岡県・八女市】

事業の概要

地域に点在する施設・豊かな自然・そこで生活する人々を連携させることを目的に持続可能な観光拠点（べんがら村）の整備を実施する。今回整備するべんがら村を都市との交流の入り口と位置づけ、八女観光の拠点とするために増設する新棟や屋外スペースでの農産物の直売や観光PRブースを設置することでファミリー層向けの観光客をターゲットとした施設整備とする。また、本施設の特徴であるクラフトビールの醸造体験、八女茶や日本酒をはじめ多彩な農作物を掛け合わせたドリンクツーリズムを展開することで交流人口の創出を目指す。

事業の目標

- 地域資源を活かした観光ツアー商品開発による交流人口の増
- 八女ブランド農産物の直売システム、加工による農業所得の増
- 情報発信（観光と食）による都市住民との共生・対流の増

事業の成果

新型コロナウイルス感染症の影響により八女市の年間観光入込客数および施設利用者数は目標には届かなかったが、イベント等における連携事業者数については、市内だけではなく市外も含め多くの事業者と連携を図ることができた。

KPI	R4目標値	R4実績値
八女市の年間観光入込客数(人)	2, 345, 000	1, 604, 000
イベント等における連携事業者数(人)	10	173
施設利用者数(人)	549, 922	342, 104



地方創生推進交付金 事業効果検証シート
(R4年度事業分)

No.	4	担当課	観光振興課・立花支所まちづくり推進係
-----	---	-----	--------------------

交付対象事業名	道の駅たちばな食のスペース(仮称)整備計画				
総合戦略での位置付け	1.「ひと」と「しごと」をつなぐ	事業費	計画額(円)	280,452,000	
	②生産性の向上		実績額(円)	219,769,000	
事業概要	観光振興と農林業の振興および地場産品の消費拡大を図るとともに、地域のにぎわいの拠点として地域経済の活性化と雇用機会の創出を図り、人口流出に歯止めをかけることを目的とする。				
活動内容	農産加工施設や研修施設、大人数で食事・休憩ができる屋内型の休憩施設等が一体となった食のスペースを整備・運営する。				
主な成果	上記整備を行ったことにより、食のスペースを「お食事処招竹梅」として運営することができた。招竹梅では、4つのテナントが入り、地元産の食材を使った料理の提供を可能としたほか、加工場の活用により商品の開発も行っている。コロナ禍で厳しい状況下でも一定の成果は出しており、これら施設のさらなる活用により今後の集客力に期待が持てる。				
重要業績評価指標(KPI)	指標(単位)	基準値	目標値(R4年度)	実績値(R4年度)	説明
	道の駅たちばな販売売上高(直売所、食のスペース)(単位:千円)	528,000	528,000	660,706	直売所 589,992千円 食のスペース 70,714千円
	加工品開発品目数(品)	0	50	100	
	開発加工品売上額(千円)	0	5,000	7,434	
取組の検証	事業効果	②本事業は地方創生に相当程度効果があった			
	課題・改善点	食のスペースの賑わいは道の駅たちばなの大きな魅力につながっているが、各テナントの集客には開きがあり、令和3年度にはテナントの一つが撤退している。テナントの募集に注力し、早急に加盟契約を進めることが課題となっている。また、加工品は直売所内の農産物の品揃えが少なくなる時期の主力商品となり得るので、加工施設を活用した加工品の開発が課題である。			

<事業効果>

- ①本事業は地方創生に非常に効果的であった ②本事業は地方創生に相当程度効果があった
③本事業は地方創生に効果があった ④本事業は地方創生に対して効果がなかった

今後の方針	③事業の継続
	直売所、加工所、飲食店の連携による相互作用の向上に向けた取り組みを進め、固定客の増加を図る。すべての施設で継続した店舗展開ができるように、空きテナントの解消、加工品の開発を目指していきたい。また、集客力を高めるための広告、宣伝に力を入れ客の増加を図っていきたい。

<今後の方針>

- ①追加等さらに発展させる ②事業内容の見直し(改善)
③事業の継続 ④事業の中止 ⑤予定どおり事業終了

有識者からの評価	①総合戦略のKPI達成に有効であった
意見	・2階の飲食スペースの利用促進・活用の方法を検討されたい。 ・八女市外の来訪者が多いようだが、ターゲットを絞った仕掛けをしていくとよいのではないか。

<有識者からの評価>

- ①総合戦略のKPI達成に有効であった ②総合戦略のKPI達成に有効とは言えない

道の駅たちばな食のスペース(仮称)整備計画【福岡県・八女市】

事業の概要

観光振興と農林業の振興および地場産品の消費拡大を図るとともに、地域のにぎわいの拠点として地域経済の活性化と雇用機会の創出を図り、人口流出に歯止めをかけることを目的とし、農産加工施設や研修施設、大人数で食事・休憩が出来る屋内型の休憩施設等が一体となった道の駅たちばな食のスペース(仮称)を整備する。

事業の目標

本整備計画により、令和2年8月8日から「お食事処 招竹梅」としてオープンすることができた。1階飲食スペースでは、直売所で販売している食材等を使った料理の提供を行っている。また、2階の加工スペースでも地元食材を使った商品の開発・販売を行っている。これらにより、地元の食材を加工し、提供するサイクルを作っている。

補助事業の重要業績評価指標については、コロナ禍の状況ではあったが、当初計画を超えた成果が出ている。また、指標外ではあるが来場者の増加、雇用の創出にも寄与している。

今後は、加工部門の黒字化、空きテナントの早期開店に取り組み、道の駅の活性化による魅力アップにつなげたい。



▲招竹梅 外観



▲2階 加工場



▲1階 飲食スペース



▲特産物加工品(ピクルス、ドレッシング)

地方創生拠点整備交付金 事業効果検証シート
(R4年度事業分)

No.	5	担当課	黒木支所まちづくり推進係
-----	---	-----	--------------

交付対象事業名	笠原地区木育及びキャンプ施設整備計画				
総合戦略での位置付け	2-2 交流の拡大と関係人口の創出	事業費	計画額(円)	384,135,000	
	②持続可能な観光事業の推進と観光施設の整備		実績額(円)	357,494,000	
事業概要	「木育」の機能を持つキャンプ場を整備し、地域住民と連携し地域全体で観光の振興と木育の推進を図り、キャンプ愛好家はもとより子育て世代に自然体験の場を提供し、交流人口の増による地域のにぎわいを創出する。 また、「薪」に着目し、地域内に豊富にある森林資源に付加価値をつけ、施設利用者に地域農産物とあわせて販売することで地場産品の消費拡大を図り経済の活性化を促し、さらには、特色ある施設を運営することで地域の魅力を発信し、施設・森林管理や木育スタッフなど雇用機会の創出も図るなど関係人口の創出・拡大、将来的には移住、定住につながる事業展開を行うことによって、八女ファンを増やしていき都市部から人を呼び込み人口の増加を目指す。				
活動内容	山間地という森林環境の中に、木のぬくもりに直接触れることができる木のおもちゃを備える木育施設兼母屋、八女産材を使用した宿泊施設5棟、オートキャンプサイト18区画、炊事場・シャワー・トイレのサンタリー棟、母屋の中には地域農産物や薪を販売する物販スペース、八女茶発祥の地としての地の利を活かした八女茶カフェを整備した。				
主な成果	地域住民と来訪者の交流拠点とすることで交流人口の増加、経済の活性化、雇用の創出及び移住・定住を推進し、将来にわたって自立性を持ったコミュニティの運営ができる地域となることを目指す。 周辺の森林を含め自然体験の場を提供し、親子ふれあいの場、森林環境教育の場としても利活用していく。 また、物販、八女茶カフェを地場産品の販売拠点として利活用していく。あわせて、子どもから高齢者まで多世代間交流の拠点としての役割も期待できる。				
重要業績評価指標(KPI)	指標(単位)	基準値	目標値(R4年度)	実績値(R4年度)	説明
	施設入込客数(人)	0	11,100	18,695	木育体験者数、各サイト及びキャンピング、コテージ利用者数
	施設の利用料収入額(千円)	0	13,000	47,447	サイト売上高
	市の延べ宿泊者数(千人)	109	131	152	
取組の検証	事業効果	②本事業は地方創生に相当程度効果があった			
	課題・改善点	施設整備まで度重なる地域との話し合いを行い、地元雇用を基本として運営しているが、地域の高齢化と若年者不足のより円滑な事業運営のための人材確保が課題となっている。また、さらなる地域への経済効果の波及のため、地場産品の販売や木育における人的支援および原材料の供給等についての体制整備を推進する必要がある。さらに、新型コロナウイルス感染症対策により取り組みが遅れている木育メニューの充実を図る必要がある。			

<事業効果>

- ①本事業は地方創生に非常に効果的であった ②本事業は地方創生に相当程度効果があった
③本事業は地方創生に効果があった ④本事業は地方創生に対して効果がなかった

今後の方針	③事業の継続
	顧客満足度を上げるための各種取り組みを行い、リピーターゲストの定着を図るとともに、カフェや木育メニューの充実を図ることにより新規来訪者の増加を図る。

<今後の方針>

- ①追加等さらに発展させる ②事業内容の見直し(改善)
③事業の継続 ④事業の中止 ⑤予定どおり事業終了

有識者からの評価	①総合戦略のKPI達成に有効であった
意見	・非常に好評であり、効果のある事業である。一方で、地元雇用について課題があり、将来を見据えた運営方法を検討いただきたい。

<有識者からの評価>

- ①総合戦略のKPI達成に有効であった ②総合戦略のKPI達成に有効とは言えない

笠原地区木育及びキャンプ施設整備計画【福岡県・八女市】

事業の概要

「木育」の機能を持つキャンプ場を整備し、地域住民と連携し地域全体で観光の振興と木育の推進を図り、キャンプ愛好家はもとより子育て世代に自然体験の場を提供し、交流人口の増による地域のにぎわいを創出する。また、「薪」に着目し、地域内に豊富にある森林資源に付加価値をつけ、施設利用者に地域農産物とあわせて販売することで地場産品の消費拡大を図り経済の活性化を促し、さらには、特色ある施設を運営することで地域の魅力を発信し、施設・森林管理や木育スタッフなど雇用機会の創出も図るなど関係人口の創出・拡大、将来的には移住、定住につながる事業展開を行うことによって、八女ファンを増やしていき都市部から人を呼び込み人口の増加を目指す。

事業の目標

- 地域住民と来訪者の交流拠点とすることで交流人口の増加、経済の活性化、雇用の創出及び移住・定住を推進し、将来にわたって自立性を持ったコミュニティの運営ができる地域となることを目指す。
- 周辺の森林を含め自然体験の場を提供し、親子ふれあいの場、森林環境教育の場としても利活用していく。
- 物販、八女茶カフェを地場産品の販売拠点として利活用していく。
- 子どもから高齢者まで多世代間交流の拠点

事業の成果

- 令和3年4月オープン以来、目標を上回る来訪者があり、交流人口の増や地場産品の消費拡大など地域の活性化が図られている。また、Uターン者や地元住民の雇用により雇用機会の創出が図られた。

KPI	R4目標値	R4実績値
施設入込客数	11,100人	18,695人
施設の利用料収入額	13,000千円	47,447千円
市の延べ宿泊者数	131千人	152千人

